

解析学・講義資料—べき級数の項別微分可能性とその収束半径

(担当) 緒方秀教 (e-mail)ogata@im.uec.ac.jp

2015年11月16日(月)

定理 1 区間 I における関数列 $f_n(x)$ について、つぎを仮定する：

1. $f_n(x)$ は I で C^1 級である (微分可能かつ $f'(x)$ は連続である) .
2. I 上のある関数 $g(x)$ が存在して、 I 内の任意の有界閉区間 $[a, b]$ において $f'_n(x)$ は $[a, b]$ 上で $g(x)$ に一様収束する.
3. ある $c \in I$ に対し極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(c)$ が存在する.

このとき、

- (i). I 上のある関数 $f(x)$ が存在して、 I 内の任意の有界閉区間 $[a, b]$ において $f_n(x)$ は $f(x)$ へ一様収束する.
- (ii). 各 $x \in I$ に対し、 $\lim_{n \rightarrow \infty} f'_n(x) = f'(x)$.

□

証明 有界閉区間 $[a, b](\ni c)$ を任意にとる. このとき、 $x \in [a, b]$ について

$$f_n(x) = \int_c^x f'_n(y) dy + f_n(c) \quad (1)$$

が成り立つ. $f'_n(x) \rightarrow g(x)$ ($[a, b]$ 上一様収束) であるから、式 (1) 右辺は $n \rightarrow \infty$ で $\int_c^x g(y) dy + \gamma$ ($\gamma = \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(c)$) に収束する. よって、 $f_n(x)$ の $n \rightarrow \infty$ における極限も存在し、 $f(x) = \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x)$ (各点収束) とおくと、

$$f(x) = \int_c^x g(y) dy + \gamma \quad (2)$$

が成り立つ. (1) と (2) の差をとると、

$$f_n(x) - f(x) = \int_c^x \{f'_n(y) - g(y)\} dy + f_n(c) - \gamma. \quad (3)$$

$\epsilon > 0$ を任意にとるとある $n_0 \in \mathbb{N}$ が存在して、

$$\begin{aligned} |f'_n(y) - g(y)| &< \frac{\epsilon}{2(b-a)} \quad (\forall y \in [a, b], \forall n \geq n_0), \\ |f_n(c) - \gamma| &< \frac{\epsilon}{2} \quad (\forall n \geq n_0) \end{aligned}$$

が成り立つ. よって、(3) より、

$$|f_n(x) - f(x)| \leq (b-a) \cdot \frac{\epsilon}{2(b-a)} + \frac{\epsilon}{2} = \frac{\epsilon}{2} + \frac{\epsilon}{2} = \epsilon \quad (\forall n \geq n_0)$$

が成り立つ. $x \in [a, b]$ は任意であったから、これは $f_n(x)$ が $[a, b]$ 上 $f(x)$ に一様収束することを示す. そして、(2) を x について微分すれば、 $f'(x) = g(x) = \lim_{n \rightarrow \infty} f'_n(x)$ がわかる. ■

定理 2 べき級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ が収束半径 R を持つならば、それを項別微分して得られるべき級数

$\sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1}$ も収束半径 R を持ち、

$$\left\{ \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \right\}' = \sum_{n=0}^{\infty} \{a_n x^n\}' = \sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1} \quad (\forall x \in (-R, R)).$$

□

証明 べき級数 $\sum a_n x^n$ とその項別積分 $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{a_n}{n+1} x^{n+1}$ の収束半径が等しいことの証明における議論をべき級数 $\sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1} = \sum_{n=0}^{\infty} (n+1) a_{n+1} x^n$ と $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n = \sum_{n=-1}^{\infty} \frac{(n+1) a_{n+1}}{n+1} x^{n+1}$ に適用すれば、これらのべき級数の収束半径が等しいことがわかる。

関数列 $f_N(x) = \sum_{n=0}^N a_n x^n$ は定理 1 の仮定 1, 2 を満たす。そして、 $c \in (-R, R)$ を任意にとれば、 $\lim_{N \rightarrow \infty} f_N(c) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n c^n$ は収束する。したがって、定理 1 より任意の $x \in (-R, R)$ に対して

$$\left\{ \lim_{N \rightarrow \infty} f_N(x) \right\}' = \lim_{N \rightarrow \infty} f_N'(x), \text{ すなわち,}$$

$$\begin{aligned} \left\{ \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \right\}' &= \left\{ \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=0}^N a_n x^n \right\}' = \lim_{N \rightarrow \infty} \left\{ \sum_{n=0}^N a_n x^n \right\}' \\ &= \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=0}^N \{a_n x^n\}' = \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=1}^N n a_n x^{n-1} = \sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1} \end{aligned}$$

が成立する。 ■